

原発事故で福島県民の1人として
「笑いと、怒りと、優しさ」を感じた時
さて、笑うしかないと。

放射線に汚染されたこの山河。
あれと海。人間が感じる澄みきった
空と空気(?)。紅葉の奇麗なこと。
透き通った水。黄金色に染まって
垂れ下つて稻穂。

「屋根瓦の崩れと、仮設住宅を除いて」
事故で傷付いた福島県にも秋は訪れた
素晴らしい秋である。

深呼吸したいから息を止める。

何で、俺は意気地のない男なんだろ。
こんな放射能思いきって吸ってしまえ
しかレ吸えない。マスクをする。

始めて、いや、いつもだから自分の弱さが
認識できなくて瞬間に気づく。

涙を出しながら(悔しい)。笑つてしまつて
涙腺くなつて歳を感じる。

始めは笑いつたなと思う
この自然豊かさは福島県(その他の都県も)
それからこのままは何だ

次に、怒りが込み上りて来る事があつた。

思えば、避難所のアリーナに東電の社員を呼んだ時、5月3日 PM 6:30 ~ 10:00

8名から来る。被災者からいろいろ質問をした。
思うような回答は返えってくす。

そこで私は始めて東電の社員数は何名か質問する。意味を理解しきれず無言が続く少し立って約8,000人と言う返答。

直ぐに何名福島県に社員が何人入って
いるか聞く。答え無し。

質問を変え提案をする。

約8,000名の年収を1人200~300万にして、その差額を、福島県の被災者に支払う様に言う
当然答え無し。そして謝つていなかつて何が図太さか見え隠れする。

東電は罪の意識が無いように思つた。
言うに言われぬ怒りが込み上りて来る
放射能からの惨状を招き、苦しみを負荷し
人生を奪い、将来の病いを植え付け
今まで安全、安心を言い続け。

トイレの無いマンションと言われても
竟に返さず。世界有数の高額の料金を徴収する。たとえば、基本料金の中に
一世帯108円の徴収金があるこれは1年間で3,000円でほとんど天下り団体に使わ
れている。

そして、原子力発電の推進に奔走し。

嘘を言い、情報の隠蔽、遣らせ等々
きりかたない。さて

それから、避難所の中での事で
逆立った心が優しくなつたことわかつた
ある男の子の母うな瞳の笑顔に愛しくなり
頬擦りしきくなる子かい居た。

私はその癒す力を持つて子を、エンジェル
ちゃんと呼び、回りの人もエンジェルちゃんと
呼び始めた。そして皆で優しくなれた
その子が将来どうなるのか心配になり
悲しくなる。低線量被曝、内部被曝
の恐ろしさ。今が大切な時なのに！
こんな暗雲何十年続くのか……。

今、子供と若者は将来の奈に放射能から
遠ざかるしか無い。

それは公費での疎開しかない。
福島県民を救つてしまい、国は県は、市町村は
できないならば県民は立ち上からなければ
ならないではないか……。

平成23年10月吉日

橋本好弘

老人より